

第5期 西区自治協議会 成果と課題
(平成27年度～平成28年度)

西区自治協議会

1	委員編成	
	(1)	第5期 西区自治協議会 委員名簿・・・・・・・・P 1
	(2)	部会の構成及び構成員名簿・・・・・・・・P 2
2	はじめに	・・・・・・・・P 3
3	取組内容・成果と課題	
	(1)	本会について・・・・・・・・P 3
	(2)	部会について・・・・・・・・P 5
	ア	第1部会に関する事・・・・・・・・P 5
	イ	第2部会に関する事・・・・・・・・P 7
	ウ	第3部会に関する事・・・・・・・・P 10
	エ	プロジェクトチーム1に関する事・・・・・・・・P 12
	オ	プロジェクトチーム2に関する事・・・・・・・・P 13
4	まとめ	・・・・・・・・P 14

1 委員編成

(1) 第5期 西区自治協議会 委員名簿

(順不同・敬称略)

氏 名	所 属	就 任 期 間
加藤 惇一	内野コミュニティ協議会 会長※	平成27年4月1日～平成27年6月5日
田村 信雄	内野・五十嵐まちづくり協議会 会長	平成28年2月25日～平成29年3月31日
寺瀬 千恵	西内野コミュニティ協議会 副会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
小林 邦太郎	コミュニティ中野小屋 副会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
高島 圭介	コミュニティ佐潟 副会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
長谷川 洌	坂井輪中学校区まちづくり協議会 副会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
○ 下川 照雄	坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会 会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
笠原 哲男	東青山小学校区コミュニティ協議会 副会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
沢田 富夫	五十嵐小学校区コミュニティ協議会 副会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
大谷 勇	真砂小学校区コミュニティ協議会 会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
村井 良次	青山小学校区コミュニティ協議会 副会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
◎ 岩脇 正之	小針小学校区コミュニティ協議会 会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
大谷 一男	黒埼南ふれあい協議会 会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
浅妻 茂行	大野校区ふれあい協議会 副会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
○ 渡辺 美弥子	立仏校区ふれあい協議会 副会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
松井 建吾	山田校区ふれあい協議会 健康福祉部副副会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
中原 勝芳	佐潟と歩む赤塚の会 会員	平成27年4月1日～平成29年3月31日
宗村 瑞枝	にいがたっ子スペースくろさき運営協議会 会員	平成27年4月1日～平成29年3月31日
丹羽 礼子	西区民生委員児童委員会連絡会 委員	平成27年4月1日～平成29年3月31日
永吉 秀司	新潟大学 教育学部 芸術環境講座 准教授	平成27年4月1日～平成29年3月31日
日野 稜馬	新潟大学 人文学部 学生	平成27年4月1日～平成29年3月31日
小林 満男	新潟国際情報大学 情報文化学部長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
城丸 樹	新潟国際情報大学 情報文化学部情報システム学科 学生	平成27年4月1日～平成29年3月31日
廣澤 晃隆	西区PTA連合会 会長	平成27年4月1日～平成28年3月31日
庄山 由紀	西区PTA連合会	平成28年4月26日～平成29年3月31日
富岡 照子	西区老人クラブ連合会 女性部会員	平成27年4月1日～平成29年3月31日
塩川 英男	新潟西商工会 会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
郷 扶二子	坂井輪中学校区青少年育成協議会 会長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
渡邊 正友	元専門学校副校長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
鍋谷 總子	元小学校長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
尾崎 美幸	NPO法人新潟NPO協会	平成27年4月1日～平成29年3月31日
坂井 修	公募委員	平成27年4月1日～平成29年3月31日
佐野 恭子	公募委員	平成27年4月1日～平成29年3月31日
高木 泉	公募委員	平成27年4月1日～平成29年3月31日
広瀬 喜代子	公募委員	平成27年4月1日～平成29年3月31日
三富 正典	公募委員	平成27年4月1日～平成29年3月31日
青木 葉子	越後中央農業協同組合 女性部黒埼支部長	平成27年4月1日～平成29年3月31日
木村 優子	西区社会福祉協議会 理事	平成27年7月28日～平成29年3月31日

◎・・・会長, ○・・・副会長

※平成27年6月17日付け内野コミュニティ協議会解散

(2) 部会の構成及び構成員名簿

(部会長、副部会長、現委員、前委員の順に掲載・敬称略)

<通常部会>

第1部会

担当分野：防犯、防災、自然環境、住環境、その他西区自治協議会が定めるもの
所属委員：笠原 哲男（部会長）、大谷 勇（副部会長）、田村 信雄、寺瀬 千恵、
長谷川 洌、下川 照雄、日野 稜馬、富岡 照子、渡邊 正友、尾崎 美幸、
広瀬 喜代子、三富 正典、加藤 惇一

第2部会

担当分野：保健福祉、文化、教育、その他西区自治協議会が定めるもの
所属委員：郷 扶二子（部会長）、大谷 一男（副部会長）、高島 圭介、村井 良次、
渡辺 美弥子、宗村 瑞枝、丹羽 礼子、城丸 樹、庄山 由紀、鍋谷 總子、
高木 泉、木村 優子、廣澤 晃隆

第3部会

担当分野：農林水産業、商工業、交通、その他西区自治協議会が定めるもの
所属委員：塩川 英男（部会長）、浅妻 茂行（副部会長）、小林 邦太郎、沢田 富夫、
岩脇 正之、松井 建吾、中原 勝芳、永吉 秀司、小林 満男、坂井 修、
佐野 恭子、青木 葉子

<特別部会>

プロジェクトチーム1

担当分野：自治協議会広報紙の編集・発行に関するもの
所属委員：大谷 一男（部会長）、尾崎 美幸（副部会長）、渡辺 美弥子、宗村 瑞枝、
小林 満男、城丸 樹、鍋谷 總子、広瀬 喜代子、三富 正典

プロジェクトチーム2

担当分野：西区アートフェスティバルの企画・実施に関するもの
所属委員：永吉 秀司（部会長）、渡邊 正友（副部会長）、浅妻 茂行、松井 建吾、
富岡 照子、佐野 恭子、高木 泉

2 はじめに

近年、少子高齢化の進展やコミュニティの希薄化が指摘されるなど、地域を取り巻く情勢は絶えず変化を続け、地域課題が多様化・複雑化する中、これまで以上に区民と行政が協働し、きめ細かく地域課題に対応していくことが重要となっています。第5期西区自治協議会では、年4回の広報紙発行や区自治協議会提案事業を通じて、区自治協議会の存在の更なる発信を図りながら、区民と市との協働の要としての役割を発揮するよう、自治協議会発足10年に際し、改めて、諸団体との連携を大切に各種活動を展開してきました。

区内に2つの四年制大学のほか、短期大学や専門学校を擁し、文教地区としての長を有する西区では、平成28年度提案事業「商店街等活性化研究・実践事業」等において、世代を越えた交流活動として新潟大学及び新潟国際情報大学との連携事業に取り組みました。若者の意見を今後のまちづくりに活かしていく必要性を再認識するとともに、区自治協議会の活動に対する理解をより広める機会となりました。

また、平成28年度提案事業「高齢化をテーマにした講演会」では、西区役所主催の「本州東日本西区長サミット2016」と連携し、鎌田實氏の基調講演及びパネルディスカッションから「協働」についての基礎や筋道を探り、各政令市西区の地域活動の多くの事例にも触れ、今後の新潟市西区における支え合い活動の取組みの参考とすることができました。

3 取組内容・成果と課題

(1) 本会について

ア 活動の活発化

- ・区自治協議会活動の基本は区民との協働の要であることを、各委員が深く認識して区民の参画、協働の意識向上に努めることが大切であると確認できました。
- ・西区自治協議会委員36名（うち21名が新任委員）で第5期の活動がスタートし、区自治協議会の委員としての力を発揮できるよう前期に引き続き「区自治協議会オリエンテーション」が開催されました。
- ・第5期では、前期当初より2名上回る計14名の女性委員からの参画を得たほか、2名の学生委員からも参画いただくことなどにより、議論の多様化、活性化に取り組みました。
- ・地域コミュニティ協議会選出委員をはじめ、各委員がそれぞれの立場において、地域と区自治協議会を結び、今後の地域活動へ活かしていくことを意識し、地域代表としての役割を果たすよう努めました。

イ 自治協議会委員の成長を図る西区独自の「区自治協議会委員研修」開催

「自治の深化に向けて」の施策の中で平成26年度からスタートした区自治協議会独自の研修会が年1回開催され、委員のスキルアップ・意識向上に結びつきました。地域課題の中でもとりわけ福祉に関することが重要な位置づけとなり、

地域包括ケアシステムの話題が欠かせない情勢となっている昨今、早期に解決の糸口を模索すべく意見交換等を行い、今後の地域づくりへの取組みがより明確となりました。

●平成 27 年 10 月 29 日

講師：地域包括ケア推進課 佐久間課長、河田瑋子氏

テーマ：地域包括ケアシステムについて

●平成 29 年 1 月 27 日

講師：地域包括ケア推進課 小野課長、西区健康福祉課 小関課長

テーマ：地域包括ケアシステムについて

ウ 自治協議会提案事業の取組み

平成 27 年度の 5 つの事業と平成 28 年度の 6 つの事業は担当部会の活発な活動により全て予定通り実施され、多くの区民に喜ばれました。

●平成 27 年度

・平成 27 年 9 月 6 日

高齢化をテーマにした講演会（第 2 部会）

・平成 27 年 10 月

西区特産物・観光地カレンダー（第 3 部会）

・平成 27 年 10 月 25 日

第 3 回西区アートフェスティバル（プロジェクトチーム 2）

・平成 27 年 11 月 30 日

防災に関する公開授業（第 1 部会）

・平成 28 年 3 月 5 日

スポーツ鬼ごっこ普及啓発事業（第 2 部会）

●平成 28 年度

・平成 28 年 6 月 20 日～

商店街等活性化研究・実践事業（第 3 部会）

・平成 28 年 9 月 11 日

高齢化をテーマにした講演会（第 2 部会）

・平成 28 年 9 月 24 日、10 月 1 日

防災に関する公開授業（第 1 部会）

・平成 28 年 10 月 2 日

スポーツ鬼ごっこ普及啓発事業（第 2 部会）

・平成 28 年 10 月

西区特産物・観光地カレンダー（第 3 部会）

・平成 28 年 10 月 22 日、10 月 23 日

第 4 回西区アートフェスティバル（プロジェクトチーム 2）

エ 意見聴取

●平成 27 年度

時期：平成 27 年 6 月

件名：平成 28 年度特色ある区づくり事業について【必須意見聴取事項】

概要：区企画事業及び自治協議会提案事業それぞれについて、部会及び本会の協議で議決してきた内容をもって、回答とした。（平成 27 年 12 月）

時期：平成 27 年 9 月

件名：（仮称）内野地区集会施設の設置及び指定管理者制度の導入について【必須意見聴取事項】

概要：本会で審議し、異議ない旨、議決・回答した。（平成 27 年 9 月）

●平成 28 年度

時期：平成 28 年 6 月

件名：平成 29 年度特色ある区づくり事業について【必須意見聴取事項】

概要：区企画事業及び自治協議会提案事業それぞれについて、部会及び本会の協議で議決してきた内容をもって、回答とした。（平成 28 年 12 月）

時期：平成 28 年 9 月

件名：立仏市民農園の閉園及び新農園の開園について【必須意見聴取事項】

概要：本会で審議し、異議ない旨、議決・回答した。（平成 28 年 9 月）

(2) 部会について

- ・ 3つの通常部会、2プロジェクトチームの特別部会に編成され、全委員がいずれかの部会に所属して積極的に発言がなされ、部会活動を通じて区自治協議会委員としての自覚を高め、役割を発揮することに結びつきました。
- ・ 各部会の独自課題をはじめ、「特色ある区づくり事業」「区自治協議会提案事業」についても活発に議論がなされ、個別の事業に自主的、積極的に取り組む面で前進が図られました。
- ・ 区自治協議会活動の基本はあらためて各部会が「基礎＝土台」であることが確認できました。

ア 第 1 部会（防犯、防災、自然環境、住環境等）に関すること

【成果】

○自治協議会提案事業について

東日本大震災の発生以降、防災意識が高まる中、地震や津波からの防災について議論を深め、地域のさらなる防災意識向上に繋がるよう自治協議会提案事業の実施に取り組みました。

- 防災教育を通して、児童・生徒が学校だけではなく地域と協力して行動し、

被害を最小限に抑えるために必要なことを考えるきっかけづくりとして、平成27、28年度に区内の小学校、中学校を対象に「防災に関する公開授業」を実施しました。

- 平成27年度は、危機管理教育研究所の国崎信江氏をお迎えし、真砂小学校・五十嵐小学校の5・6年生、五十嵐中学校の1年生の他、地域の方々や保護者を対象に、講演会形式で防災に関する公開授業を実施しました。地震や津波からの防災について映像を用いて具体的な手法を学ぶことで、児童の防災意識の向上や、家庭で防災を考えるきっかけとすることができました。
- 平成28年度は、青山小学校と中野小屋中学校で防災に関する公開授業を実施しました。

青山小学校では、浦山地区・有明地区合同防災訓練と連携して実施することとし、5・6年生の他、防災訓練に参加した地域の方々や保護者を対象に、危機管理教育研究所の国崎信江氏から地震や津波からの防災について、講演会形式で学びました。講演後に防災訓練を受けることで、さらなる防災意識の向上に繋がり、また地域での防災を考えるきっかけをつくることができました。

中野小屋中学校では、中越防災安全推進機構の講師をお迎えし、1～3年生の他、地域の方々や保護者を対象に実施しました。中学生は災害時の実働が期待されることから、成長段階に応じた学年別のワークショップや避難所の運営を想定した全体でのワークショップを通して、より具体的な内容について学ぶことで、生徒の防災意識の向上や地域としての防災を考えるきっかけとすることができました。

○各種審議事項について

- 防犯について

区内の犯罪状況を把握し、地域でできることを検討するため、新潟西警察署の説明のもと意見交換を行い、防犯啓発の手法についての理解を深め、次期の自治協議会提案事業に繋げることができました。

【課題】

- ① 自治協議会提案事業について

東日本大震災発生以降に、地域課題としての重要度が高まった防災に関して提案事業を実施してきたため、防犯等の他の分野に関する事業を実施することができませんでした。他の分野における地域課題についても議論を深め、その時々に応じた重要な課題に焦点をあてて、課題解決に繋がる事業を審議していく必要があります。

- ② 除雪について

少子高齢化が進む中、私道や歩道等の除雪について、住民だけでは対応が困難な状況があります。来季以降の除雪計画等の改善に向けて、私道や歩道の除

雪の在り方について、関係課との意見交換等を踏まえながら、自治協議会として取り組めることを検討していく必要があります。

③ 防犯について

次期の自治協議会提案事業では、8区の中で最も多く発生している特殊詐欺の防止をテーマとした講演会を実施することで、防犯の啓発を図ることとしました。講演会を地域への啓発の契機としつつ、引き続き、区内の犯罪発生状況を把握しながら、青色回転灯装備車委嘱団体の普及、特殊詐欺の防止や高齢者の万引きなど、効果的な防犯啓発の手法について検討していく必要があります。

④ 自然環境・住環境について

自然環境・住環境の分野では、西川や寺尾中央公園の環境美化について議論をすることができませんでした。特に寺尾中央公園は、広域避難場所でもあることから現地視察等により、利活用状況など現状把握を行いながら、議論を進めていく必要があります。

⑤ 飛砂防止対策について

毎年、飛砂による国道402号の交通障害や住宅地への被害が発生していましたが、大学や地域住民等との連携による飛砂対策により、改善が見られています。今後は、その効果を確認しながら維持管理の手法についても理解を深め、課題等について注視していく必要があります。

イ 第2部会（保健福祉、文化、教育等）に関すること

【成果】

○自治協議会提案事業について

少子高齢化が進む中、保健福祉から文化、教育を所掌する第2部会においては、地域課題の解決に向けて、子どもからお年寄りまでの幅広い年代を対象とした自治協議会提案事業の実施に取り組みました。

① 西区においても4人に1人以上が高齢者となる中、高齢化をテーマにした講演会事業として、平成27年度に「白澤卓二講演会」、平成28年度には「鎌田實講演会」を実施しました。

- 平成27年度「白澤卓二講演会」では、認知症をテーマに、アンチエイジングで著名な白澤卓二順天堂大学教授をお迎えし、手軽に日常生活でできる認知症予防実践策の紹介を通じて、高齢者が目標をもち楽しく100歳の健康長寿を目指していただくきっかけとなるよう取り組みを行いました。また、当日会場では、食生活改善推進委員との連携により、講師監修の健康スープの試食提供を行ったほか、レシピや減塩チラシの配布を行うことで、講演内容だけでなく、生活習慣づくりの実効性を高めることができました。

- 平成 28 年度「鎌田實講演会」では、地域包括ケアをテーマに、地域医療を通じて様々な助け合い活動の実践者である鎌田實諏訪中央病院名誉院長をお迎えし、地域で命を支えるとは何か、地域に求められることは何かを具体的な事例により紹介いただき、西区における助け合い活動実践へのきっかけとなるよう取組みを行いました。また、区役所と連携し、政令市西区長らが集い、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組みについて、事例発表等により情報共有と検討を深める「本州東日本西区長サミット 2016」と併せて実施することで、基調講演の趣旨をパネルディスカッションにより更に深め、実効性を高めることができました。

② 子どもからお年寄りまで年代や性別を問わず、誰もが楽しめるスポーツとして広がりを見せている「スポーツ鬼ごっこ」について、屋外スポーツが減少する新潟の冬場においても取り組めるといった地域適合性も踏まえ、多世代交流や青少年の健全育成、健康づくりなど、その多様な効果が発揮されるよう普及啓発に取り組みしました。

- 平成 27 年度は、地域での活動の裾野が広がるよう、指導ができる 3 級ライセンス取得者の増加に向けた講習会・見学会を実施し、スポーツ振興会やスポーツ推進委員、コミュニティ協議会など、地域での活動を行う方々から参加をいただき、普及啓発の土台づくりを行うことができました。また、本講習会の開催を通じて、スポーツ鬼ごっこの普及推進に向けて活動を行う任意団体「Oni Base Niigata」の発足を支援することができました。

- 平成 28 年度は、まだスポーツ鬼ごっこを知らない多くの子どもたちに直接魅力を感じてもらえるよう、区民をはじめ約 7 千人もの方々が来場する「ふれ！ふれ！西区ふれあいまつり」において体験会を開催することで、参加者をはじめ、その他多くの来場者にスポーツ鬼ごっこを認知してもらうことができました。また、西区かがやき大使を活用して PR を行うことで、広くメディア掲載されるなど、スポーツ鬼ごっこの取組みについて一層の周知を図ることができました。なお、実施にあたっては、昨年度に発足を支援した「Oni Base Niigata」と協働して運営を行い、普及活動の裾野を広げることができました。

○各種審議事項について

- ① 特色ある区づくり事業予算審議について ※必須意見聴取事項

平成 29 年度区づくり事業予算審議において、「地域の茶の間」関係者が相互の取組みについて理解を深めネットワークの構築を図る交流事業の実施について提案し、区企画事業「地域の茶の間交流会開催事業」として新規事業の実施に反映することができました。

② 民生委員・児童委員の推薦制度について

前期からの審議事項であり、一斉改選期において、その確保に難を有する地域も指摘される民生委員の推薦制度や委員配置状況について、福祉総務課の説明のもと意見交換を行いました。

現状では、区及び地区ごとに民生委員の配置に偏りがあり、特に、人口・世帯数に比して民生委員が少ない地域では、民生委員の負担感の増大に繋がり、後任者の確保に難を有している状況など、地域での問題点について共有し、3年後の次期改選に向けて、市が主導的に取り組み、現状から少しでも改善するよう、市担当課に検討を申し入れました。

③ 介護サービス基盤の整備について

地域包括ケアシステムの構築が求められる中、新潟市介護保険事業計画等に基づき介護サービス基盤の整備について、高齢者支援課の説明のもと意見交換を行いました。各種介護サービスの内容をはじめ、地域における介護サービス基盤を把握することで、支え合いの仕組みづくりに向けて見識と理解を深め、提案事業の実施や区自治協議会委員研修会の実施に繋げることができました。

④ 学校統廃合に係る適正配置基本方針について

西区では、児童数の増加により既存の通学区域を分離し、新たな校舎等の整備が予定される新通小学校区が存する一方、全体の少子化が進む中、「新潟市立小中学校の適正配置基本方針」、「西区の小中学校の適正配置の状況」について、教育総務課の説明のもと意見交換を行い、少子化により将来的には学校の統廃合が各地域で生じ得る問題であるとの認識を共有し、現状について見識と理解を深めました。

⑤ 西区における公民館事業について

地域との連携を進めていく上で、社会教育の拠点施設として重要な役割を担う公民館の事業や位置づけについて、西区の基幹公民館である坂井輪地区公民館の説明のもと意見交換を行い、認識と理解を深めることができました。

⑥ 西区における図書館の取組みについて

地域課題の検討や、様々な地域活動を行う上で重要な機能を果たす図書館サービス等について、坂井輪図書館の説明のもと意見交換を行い、利用者視点からの図書館活用術や団体貸出制度など見識と理解を深めました。提案事業の実施にあたって、「レファレンス」や「おでかけ図書館」等の活用により、企画内容の充実に繋げることができました。

⑦ 教育ミーティングについて

部会主催の教育ミーティングにおいて、教育支援センターとの調整により、

現任の小中学校長との意見交換を設定・実施することで、学校現場の取り組み状況や特性を把握し、意見交換の質を高めることができました。

【課題】

① 全体について

保健福祉、文化、教育など所掌分野の幅が広く、2カ年を通じて複数の提案事業の実施に取り組んだものの、事業実施が及ばない分野が生じています。提案事業実施にあたり、民間事業者への委託や、他団体との協働により効率化を図るとともに、その根底となる地域課題の議論を深め、部会活動としてバランスを図っていく必要があります。

② 少子高齢化について

大きな地域課題として高齢化を捉え、地域包括ケアシステムや認知症予防など講演会を実施してきましたが、少子高齢化、特に少子化の問題に取り組むまでに至ることができませんでした。地域包括ケアシステムの構築や健康寿命の延伸に向けて、高齢化問題に引き続き取り組んでいくとともに、少子化に対し理解を深め、自治協議会として取り組んでいく方策を検討していく必要があります。

③ スポーツ鬼ごっこの普及啓発について

子どもからお年寄りまで年代や性別を問わず、誰もが楽しめるスポーツとして、講習会や体験会の実施により、提案事業を通じて普及啓発の取り組みを進めてきました。ニュースポーツの定着には、きっかけと継続が必要となりますが、地域でスポーツ鬼ごっこの自主的活動が広がるよう結実させていく必要があります。

④ 民生委員・児童委員の推薦制度について

区及び地区ごとに偏りが生じている民生委員の配置状況や、推薦に係る自治会など地域との連携強化について、3年後の次期改選に向けて、民生委員及び地域の負担感が少しでも減少するよう、民生委員協力員制度の進捗とともに注視していく必要があります。

ウ 第3部会（農林水産業、商工業、交通等）に関すること

【成果】

○自治協議会提案事業について

区の魅力向上や賑わい創出に繋がる自治協議会提案事業の実施に取り組みました。

① 区の特産物の消費や交流人口拡大のために、平成27、28年度に区の特産物や観光地の写真とキャラクターを用いたカレンダーを作成しました。

- キャラクターの制作は、新潟大学の学生に依頼し、また掲載写真を公募することにより、文教地区の特色を活かしつつ住民と一体となって制作された魅力あるカレンダーとすることができました。
- 区民に向けて区内の市公共施設やイベントで配布を行い、2年目からは区外へもPRするため、他区役所や県外の原宿表参道ネスパス等で配布を行いました。
- 配布を待ち望んでいたとの声もいただける等、区民に愛着を持ってもらえるものとなっており、また県外在住者のアンケートに「西区に行ってみよう」との意見もみられ、県外へもPRができるものとなりました。

② 内野地域拠点商業地の活性化を図るために、平成28年度に商店街等活性化研究・実践事業に取り組みました。

- 地域性を把握する区内の新潟大学、新潟国際情報大学と連携し調査・研究を行い、「若者文化を取り入れた集客に繋がるイベントの定期開催」「空き店舗の活用による地域の情報発信、交流の場創出」といった学生の柔軟な発想を取り入れた活性化のための企画書を作成しました。
- 内野地域でまちづくりを行う人材の発掘・育成を目的とする西地区公民館の「うちの発掘ぶろじゅくと」と連携し、商店街・商工会を始めとした多くの関係者に向けて企画提案を行うことで、地域課題として共通認識し、考察を深めるきっかけをつくることができました。

○各種審議事項について

① 特色ある区づくり事業予算審議について ※必須意見聴取事項

平成28年度区づくり事業予算審議において、いもジェンヌの魅力の周知・発信に向けた基軸となるPRポイントの一層の明確化について提案し、「しっとりした食感と上品な甘み」のあるいもジェンヌを、いもジェンヌ農工商連携協議会でJAと協力しながら周知・発信していただきました。

② 商店街等の活性化について

内野地区商店会・商工会関係者との意見交換や内野地域の視察により、現状や課題について理解を深め、商店街等活性化研究・実践事業に繋げることができました。

③ 佐潟の保全と活用について

区のみならず市の宝である佐潟を地域と共に守り育て、その魅力を発信するため、第4期から引き続き、佐潟クリーンアップ活動「潟普請」に参加し、佐潟の環境改善に取り組みました。

④ 公共交通について

内野駅前広場整備に伴う路線バスの乗り入れについて、関係課からの説明

をもとに意見交換を行い、内野駅と路線バスのアクセスについて理解を深めました。

【課題】

① 自治協議会提案事業について

次期も引き続き取り組んでいく商店街等活性化研究・実践事業は、研究を踏まえた実行の段階に移行するため、大学の研究チームだけではなく、地域とともに取り組み、将来的には地域が主体となって取り組んでいけるように実践・研究をしていく必要があります。また、成果を検証した後は、黒埼地域拠点商業地の活性化についても審議していく必要があります。

② 佐潟の保全と活用について

佐潟のさらなる魅力発信や保全のために、関係団体等と連携して効果的な周知方法について検討する必要があります。

③ 農業・商業について

区内の産業のさらなる振興を図るため、「農業」、「商業」単体ではなく、それぞれが連携した取り組みについて、自治協議会として具体的な試案を検討する必要があります。

エ プロジェクトチーム1（自治協議会広報紙の編集）に関すること

【成果】

○年4回発行方針について

自治協委員及び事務局の協力を得て、広報紙「西区を豊かに」を第5期全体で計8回発行することができました。

○読んでもらえる紙面づくり

- 自治協活動のうち、特に各部会が取り組んで区民から喜ばれた提案事業を継続して掲載し、自治協の存在を知らせることに貢献できました。
- 紙面の「レイアウト」「文字数」「配色」「カット」「写真」「題・見出し」に配慮した編集努力が、読者から興味を持って手に取ってもらえることにつながりました。
- 印刷業者の編集会議参加において専門的なアドバイスを受け、より見やすい紙面になるよう改善することができました。
- 読者意見により、左綴じに変更したことでファイリングしやすくなったと好評でした。
- 「ですます調」を基本とし、柔らかい印象になるようにしました。
- 双方向の紙面づくりに努力し、特に1月号ではアンケート付きクロスワードパズルなどにより、自治協全体及び広報紙に対して、読者から多数の活発なご意見等をいただくことができました。

(H28年1月号：318件 H29年1月号：329件)

- 西区役所ホームページ内に掲載している、自治協広報紙のページアクセス数について、スマートフォンからのアクセス数が増加していることから、QRコードを導入したことによる効果も読み取れました。

導入前（H27年4月～H28年2月）：7人

導入後（H28年3月～H29年1月）：119人

○継続的な編集体制づくりへの努力について

- 部会員全員で企画検討・取材・原稿作成を分担し、全メンバーが編集に関わるように心掛けました。
- 原稿作成はPT1部会で担当しますが、校正作業については全委員で行い、自治協全体で発行しているという意識を共有できました。

【課題】

○読まれる紙面づくりへの努力について

- 「自治協・広報紙が知られていない」「読まれていない」という現状を改善するために、「テーマの選び方」「読みやすい紙面づくり」等に引き続き努力すること。
- 自治協の認知度を高めること。

○継続的に発行するための編集体制確立について

- 研修会の開催等、スキルアップをすすめること。
- 自治協委員全体で作り上げるプロセスを大事にすること。

オ プロジェクトチーム2（西区アートフェスティバルの企画・実施）に関すること

【成果】

○第4期に引き続き、「西区アートフェスティバル」の開催について、今期の自治協議会提案事業として2回開催しました。

○第3回（平成27年10月27日）は、テーマを「音楽の力、西区の宝」とし、西区で活動している音楽・芸能分野の団体の発表の場として提供することができました。また、第4回（平成28年10月22、23日）は、テーマを「区民の力、地域の宝」とし、音楽・芸能分野に加え、西区にちなんだ多様なアート作品の展示も行いました。

○西区で活動している団体等を多数集めての実施だったが、スタッフ一丸となってスムーズな運営進行に努め、開催当日は来場者、出演者がアートの表現を通して一体となり、事業目的である「区民の一体感の醸成」が達成できました。

○プログラム構成については、第1回・第2回は部門別で分けたため、時間帯に

よって来場者の数に偏りが見受けられましたが、第3回・第4回においては、いずれの時間帯を鑑賞しても飽きずに楽しめるよう様々なジャンルを織り交ぜて編成し、来場者の均一化を図ることができました。

○アンケート調査では、第3回・第4回ともに「大変素晴らしい内容で、次回もぜひ見に来たい」という意見が多数を占め、来場者の高い満足度と来年度実施への期待の声を多くいただきました。

- H27 年来場者：755 人（延べ人数）
- H28 年来場者：846 人（延べ人数）

○広報チラシの印刷配布の見直しにより、経費削減に努める一方で、アート展示など企画内容の充実を図り、来場者数の増加に繋げることができました。

【課題】

○自治協議会提案事業として西区アートフェスティバルの開催を継続し、音楽・芸能分野の発表及びアート作品の展示などにより、区民による「西区の宝」を区民で共有・発信し、更なる一体感の醸成を図ります。

○来場者が特定の年齢層に片寄らないよう、また事業がマンネリ化しないよう、新規の企画内容を盛り込む等、工夫していく必要があります。

○来場者に、より一層楽しんでいただけるよう、スタッフのおもてなし講習会の開催を検討していきます。

4 まとめ

○ 提案事業の企画・実施に注力し大きな成果を得た一方、その他重要な地域課題について十分に審議する時間を確保することが困難でした。区自治協提案事業は、区づくり事業の一翼を構成するものであり、今後は一層、区役所の各専門部署から積極的に関わっていただくことで、事業内容の充実や連携が図られ、より幅広い観点で地域課題の検討を行うことができるものと思います。

○ 西区自治協議会においては、第1期当初より大学生から参画していただいているものの、若い世代の委員参画は少なく、幅広い年代からの自治協議会に対する認知度は高くない状況にあります。区自治協議会発足10年を迎え、区自治協議会が区民により一層理解していただけるよう、引き続き幅広い世代の知見を活かした活動、区民への発信について取り組んでいく必要があります。

○ 部会活動及び審議の活性化に伴い、費用弁償の支給回数の上限に達するケースが複数生じました。第5期においては、部会の構成数を見直し、集約的な議論が

行えるよう取組んだところですが、引き続き、地域課題に即した委員の自主的な議論により多様な意見の調整及びとりまとめが行えるよう、体制を整備していく必要があります。